

市町村：酒田市

## タイトル：「まるごと平田」農産物直売所を核とした農業の6次産業化

～ 直売所が動く、地域も動く「生産・加工・販売・交流」～

氏名(法人名)：ひらた農産物直売所経営組合

### 1 組織の概要

- ・設立年月日 平成11年4月14日
- ・営業開始日 平成12年4月22日
- ・組合員 56名

酒田市平田地域は、農家数610戸で総世帯数の約3割を占め、農業産出額は約23億円で、うち米が約5割、養豚が約3割、園芸が約1割である。

- ①当組合は、米への依存度が高く園芸の生産額が少ない平田地域において、園芸品目の販売拡大と農産加工品販売に力を入れ、直売所において平成19年度に悲願の**販売額1億円**を達成した。
- ②1億円のうち、農産物が40%、農産加工品が29%、地元の食品業者等の製品が27%を占め、地域の商工業との連携で販売品目を充実している。

### 2 活動内容

#### (1) 直売所販売額1億円達成による地域産業への発展—不安と期待を背負って

「売るものがあるか？」という不安、地域活性化の起爆剤としての期待を背負って平成12年にオープン以来、当組合の懸命な努力で、販売額を拡大し、平成19年度には1億円を突破した。その中でも、地域食文化をベースにした加工品の売り上げの伸びが大きい。また、開設当初から地元の食品産業と一体の取組みを行ってきたが、近年は赤ねぎ生産組合との連携で開発された赤ねぎ加工品の販売を行い、直売所の人気商品になっている。

#### (2) 在来作物「平田赤ねぎ」の地域特産化—地域団体商標取得と生産拡大

従来個別の農家で細々と栽培されてきた赤ねぎを、当組合が話題の農産物にし、目玉商品としてきた。さらに、生産を拡大するために「赤ねぎ生産組合」が設立された。種子や栽培技術の提供を行い生産拡大の礎を築いた。その後順調に拡大し、現在では年間売り上げ1300万円を達成している。平成18年には地域団体商標を取得し、地域特産品として定着を図っている。また、直売所の特徴をいかした1物2ルート販売戦略として、ユニークな取組みも行っている。

#### (3) 学校給食への野菜供給3割のシェアを直売で担う

平成13年から直売組合の中に、学校給食(3校分)への食材提供グループを組織し、地域の子供達へ、安全で安心な食材として野菜等を供給している。平成19年は24品目を提供し、使用野菜の3割になっている。また、隣接する保育園との話合いで、園児が「めんたま畑で食材を選び、その食材を使用した給食を食べる」という立地条件を活かした取組みも行われている。地域の食材に愛着を持たせる取組みである。

#### (4) 農村生活体験の受け入れによる交流～6年間で約1200名受け入れ～

平成15年から、都内中学生約200名の農村生活体験を受け入れている。農村体験を通し、子供達の家族を含めて、平田地域の魅力を発信している。

### 3 今後の発展方向

当組合は、加工品開発・販売・都市消費者の受け入れ・食育活動等に取組み、まさに6次産業へと発展してきている。今後は、1億円達成におごることなく、①個人別売上10%アップ②ワンステップアップで信頼される店作り、を重点目標に掲げ、消費者ニーズの把握に努め、高齢者と女性のパワーをフルに活かして、地域に貢献しつつ、軽食コーナー等の新たな事業展開も検討しているところである。

